

第23回中国国際放送情報ネットワーク展覧会

# CCBN2015

China Content Broadcasting Network 2015

## 「CCBN」も「AIIB」も 中国の成長戦略

阪本徳男 Sakamoto Norio

国際放送技術評論家

CCBNは1993年「第1回中国CATVショー」(8月24日~26日/中国国際貿易センター: CWTC)で開催された。出展社数93社で参加者は3万人ほどだった。1989年天安門事件で頓挫した中国の衛星放送に代わって登場した香港発のStarTVが「国境を超えるTV」として中国にも流れ込みSMATVとして受信者を伸ばしていた。また同時に全国に有線テレビ台(CATV局)の受信者を急速に増やしていた。1993年の中国といえば2000年の五輪誘致を目指していた(実際は2008年北京五輪実現)。あれから23年。テレコム関連機器メーカーも台頭しCCBN2015は、初回とは様相はガラリと変わっていた。CCBN2015はコンテンツや放送ネットワーク展としているが、その内実は限りなくNABショーに近い。中国にはBIRTVというNABショー的なイベントがあるが、最近ではCCBNの方が求心力はあるようだ。出展会社は1000社と初回と比べても10倍ほどに膨らんでいる。第1回目は日本からの出展は東芝の他1社のみだった。CCBN2015でも出展は少なく、日本勢がこのイベントをいかに「無視」しているかがわかる。CCBNを毎回カバーされている阪本徳男・国際放送技術評論家にイベントの概要を報告していただいた。報告形式は阪本氏独特の箇条書き風である。行間をよく読み解くことが大切だろう。写真の説明文は編集部でつけたもので、筆者の見解とは別個のものだ。

(構成+写真:天野昭/セミナー会場の写真は筆者提供)



CCBNイベントを系統的におこなっている阪本徳男さん

## 農村過疎地域対策としての「村村通(DTH)」 「戸戸通(DTH)」が約4300万戸へと急伸

2015年3月末に北京で開催されたCCBN (China Content Broadcasting Network) 2015に参加しました。CCBN2015視察報告の前には、第二の経済大国中国の今後のあり方として全世界から注目された全国人民代表大会(全人代=国会)が3月5日に開幕、15日に閉幕、2015年政府活動報告が発表されました。CCBN2015閉幕直後の3月31日にはアジアインフラ投資銀行(AIIB)の創設メンバー参加申請の締め切り日とこの一か月間に全てが今後の日本政府、産業界にも関連する注目すべきイベントであった。

■全人代2015年国務院の李克強総理 政府活動報告  
習近平政権「新常态」時代のICT政策

中国の最終政策はすべて全人代で決定される。まず「国策」の基

本を箇条書き風に整理した。また、セミナーでの発言趣旨も同様である。

1. 2015年度の経済・社会発展の主要所期目標

中国の経済発展は新常态(ニューノーマル)に突入

- ①GDPの成長率は7%前後。
- ②消費者物価の上昇率は3%前後。
- ③都市部新規就業者数は1000万人以上、都市部登録失業率は4.5%以下。
- ④輸出入の伸びは6%前後、国際収支の基本的均衡化をはかる。
- ⑤住民所得の伸びを経済発展と比例させる。
- ⑥GDP一単位当たりのエネルギー消費量を3.1%以上削減、主要汚染物質の排出量を引き続き減少させる。